

## 東豊線新型車両「9000形」の導入について

東豊線では、平成28年度に可動式ホーム柵を設置する事業を進めております。この事業に合わせて、従来車両の老朽化更新を行い、新型車両「9000形」を導入いたします。この度、車両メーカーで製造中の車両の外観が完成しましたので、ご紹介いたします。

### 1 設計の考え方

新型車両「9000形」を設計するにあたり、本市における少子高齢化社会の到来や環境・省エネルギー問題などの社会情勢の変化を踏まえ、これまでの車両をベースに、「人と環境にやさしい地下鉄」となるよう考えました。

具体的には、誰もが安心・快適にご利用していただけるようユニバーサルデザインなどの導入、及び環境負荷を低減するよう従来車両部品の再利用や消費電力が少ない装置などを採用しました。

### 2 車両デザイン

外観のコンセプトを「爽やかでシンプルなデザインとし、親しみがもてる外観」とし、そのコンセプトに基づいたデザイン案について、札幌市立大学デザイン学部の学生と交通局の若手職員とで意見交換会を行い、印象の評価や改良点の意見を出し合いました。

その結果、お客さまに親近感を持ってもらえるよう白を基調としたシンプルな形状としました。また、東豊線のラインカラーであるスカイブルーを扉部に施すことで、札幌の空の広がりや気候風土をイメージした爽やかなデザインが完成しました。

【車両外観】



【車両側面】



【車両正面】



【意見交換会の様子】



### 3 車両の特徴

- (1) ATO・ワンマン運転※<sup>1</sup>に対応しました。
- (2) 各車両に車椅子スペースを設置するなど、ユニバーサルデザインを導入しました。
- (3) 両先頭車のほか、中間車にも非常梯子を設置するなど、より一層の安全対策を施しました。
- (4) LED車内照明やVVVFインバータ制御装置※<sup>2</sup>の採用により、省エネルギーに配慮しました。
- (5) 従来車両の台車や連結器の一部を再利用することで、コスト低減を図りました。

※<sup>1</sup> ATO・ワンマン運転とは、自動列車運転装置（ATO）を搭載した車両に、車掌が乗務せず、運転手一人（ワンマン）で自動運転を行うことです。

※<sup>2</sup> VVVFインバータ制御装置とは、ブレーキ時に発生する電気エネルギーを従来車両よりも有効活用できる、省電力に優れた電気装置のことです。

### 4 今後の予定

現在、車両メーカーの工場で車内設備の組立を進めており、車両完成後に改めて、車両設備についてホームページでご紹介する予定です。

車両は、平成26年12月中旬ごろに東車両基地へ搬入され、車両基地での整備や実際の路線を使用した試験走行などを行い、平成27年4月下旬ごろに営業開始を予定しています。